

経営改善目標の達成に向けた取組状況

1 法人の概要（令和元年7月1日現在）

法人名	(公財) 神奈川文学振興会				
設立年月日	昭和57年4月1日 (名称変更：平成23年4月1日)	代表者名	理事長 村上 博		
所在地	横浜市中区山手町110	電話番号	045-622-6666		
基本財産等	110,000,000 円	県出資額	53,000,000 円	県出資率	48.2 %

2 法人運営における現状の課題

○当財団は指定管理者として神奈川近代文学館の運営にあたっている。平成30年度の特別展では、春に生誕140年を迎えた歌人・与謝野晶子、秋に詩人・劇作家の寺山修司、年度末に作家の松本清張をとり上げた。また、企画展では、初夏にフランス大使館などから協力を得て、初の外国作家展となる「詩人大使ポール・クローデルと日本展」を開催。夏季に児童文学者の石井桃子、冬季に文芸評論家、小説家、劇作家として活躍した花田清輝などジャンルや活動時期の異なる多彩な文学者をとり上げた。

年間展示観覧者数は、5年連続で4万2千人を超え、好調を維持できた。春の与謝野晶子展ではコミックスとのコラボレーションにより、若年層の動員を伸ばすことができ、秋の寺山修司展は、若年層から中高年まで幅広い世代からの関心を集め、1万2千人を超える来場者を迎えることができた。そのほかにも、館蔵資料の充実を図り、それを活用し、県にゆかりの深い文学者を扱った当館ならではの企画展等を実施するなかで、全体として高い成果をあげることができたと考える。今後も集客と収益の両面のバランスに配慮しつつ、とり上げる作家の動員力を見極め、更に効果的な広報活動を実施して安定した動員と利用料金収入を確保したい。

○展示企画に連動した講演会等の行事、高等学校文化連盟図書専門部との協力事業、児童向け行事を含む文字・活字文化振興事業などのイベントを年間で大小99回実施。また、文字活字文化振興の一つであるパネル文学展巡回事業では過去最高の年間39回の開催、参加者約2万7千人となった。同時に中・高・大学などの教育機関、類似施設、出版社、企業団体とのイベント共催などを実施し、館利用者数の増大と館知名度の向上を図った。今後もジャンルを超えた民間事業者とのコラボレーションや県内外の教育・研究機関と連携した話題性のあるイベントを開催し、若年層を中心にあらゆる世代へ周知を行い、動員増を図ることが必要と考える。

3 経営改善目標の達成に向けた取組実績等

* 項目ごとに、下段の（ ）内に目標を、上段に実績を記載してください。

【県民サービスの向上】

No.	項目	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	元年度 (2019年度)	令和2年度	30年度自己評価
1	利用者数（展示・閲覧・会議室利用）	人	73,166 (65,000)	75,601 (65,500)	70,427 (66,000)	(66,500)	(67,000)	A
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	特別展実質2回、企画展3回を開催し、年間の展示入場者数（42,334人）は5年連続で4万2千人を超え、好調を維持できた。また、会議室利用者数は前年度比約4.6%増の22,382人となり、館利用者数は全体で目標値を大きく上回った。							
	備考							
No.	項目	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	元年度 (2019年度)	令和2年度	30年度自己評価
2	若年層向け行事参加者数（かなぶんキッズクラブほか）	人	1,308 (1,040)	1,127 (1,060)	1,170 (1,080)	(1,100)	(1,120)	A
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	夏休み、春休みの期間に紙芝居、子ども映画会、絵本の読み聞かせなどのイベントを実施した。夏季は石井桃子展に連動させたことで、多くの親子連れが参加して盛況となった。また、高等学校文化連盟等との共催行事も実施し、中高生の来館数の増加を図ったことで、目標値を上回る成果となった。							
	備考							

No.	項目	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	元年度 (2019年度)	令和2年度	30年度自己評価
3	パネル巡回文学展の実 施校数	件	24 (14)	33 (14)	39 (14)	(14)	(15)	A
	自己評価 (目標未達の場合はその理由)			今後の取組方針 (目標未達の場合は必ず記載)				
	県内を中心に小・中・高等学校の図書室等へのパネル文学展の巡回を実施。H29年が生誕150年にあたり多くの学校で活用された夏目漱石展パネルに加え、森鷗外展、中島敦展などが多く活用され、実施校数を伸ばした。また、H30年度新たに追加した与謝野晶子展パネルについても徐々に活用が進んでいる。							
備考								
No.	項目	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	元年度 (2019年度)	令和2年度	30年度自己評価
4	HPアクセス数	件	195,748 (140,000)	185,616 (150,000)	221,942 (160,000)	(170,000)	(180,000)	A
	自己評価 (目標未達の場合はその理由)			今後の取組方針 (目標未達の場合は必ず記載)				
	与謝野晶子展でのコミックスとのコラボレーションを活用した若年層の取り込みや、若年層の関心の高かった寺山修司展を通じ目標値を大幅に上回るアクセス増を図ることができた。							
備考								

【収支健全化に向けた経営改善】

No.	項目	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	元年度 (2019年度)	令和2年度	30年度自己評価
1	利用料金収入	千円	15,522 (8,974)	13,581 (9,024)	14,024 (9,074)	(9,124)	(9,174)	A
	自己評価 (目標未達の場合はその理由)			今後の取組方針 (目標未達の場合は必ず記載)				
	秋に開催した寺山修司展で20～65歳未満の入館者数が増加したことなどから、年間の観覧者数では前年比93.2%となったものの、観覧料収入が2%増加した。また、会議室使用料収入についても前年比8%増加した。							
備考								
No.	項目	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	元年度 (2019年度)	令和2年度	30年度自己評価
2	事業収入	千円	8,038 (6,429)	6,136 (6,479)	5,715 (6,529)	(6,579)	(6,629)	B
	自己評価 (目標未達の場合はその理由)			今後の取組方針 (目標未達の場合は必ず記載)				
	事業収入のうち展示解説図録販売収入では、秋の寺山修司展の図録が完売となったものの、年度末から開催した松本清張展の観覧者数が伸びなかったため平成31年3月末時点では販売は振るわなかった。また、共催イベントが低収入であったことや、文字活字文化振興事業の無料行事などでイベント参加者は多いのに収入が無かったことが原因と思われる。			図録販売数を向上させ、収入増を図りたい。また、各イベントの参加率を上げるよう、広報に努めたい。文字活字文化振興事業や若年層向けイベントなどの無料行事は収入が上がりなくとも、参加者が増えることで館の利用者増にも繋がるため意義深い。有料・無料の行事をバランス良く実施していきたい。				
備考								

No.	項目	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	元年度 (2019年度)	令和2年度	30年度自己評価
3	「神奈川近代文学館友の会」の会員数	件	1,038 (990)	1,039 (1,000)	994 (1,010)	(1,015)	(1,020)	B
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	友の会の会員数は、年間の観覧者数にほぼ比例する。年間の観覧者数が前年比93.2%であったのに対し、友の会会員数は前年比95.7%を保つことができたが、平成30年度は目標値をクリアできなかった。				友の会会員数は平成26年度から4年連続1,000人を超えていた。文学散歩等への参加や、イベントチケット確保の利便性などの特典を引き続きアピールして会員数の維持、新規獲得に努めたい。			
	備考							
No.	項目	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	元年度 (2019年度)	令和2年度	30年度自己評価
4	年間電力使用量	kwh	788,556 (783,000)	778,180 (782,500)	771,442 (782,000)	(781,700)	(781,500)	A
	年間電力電気料金	千円	16,288 (19,100)	17,400 (19,400)	18,744 (19,100)	(19,050)	(19,000)	
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	電気料金の節減を図るため各所管繕工事により照明のLED化を進捗させたほか、指定管理料内でもLED化を行い光熱費の抑制を図った。電力使用量の節減によって目標値以下の電気料金に抑制することができ、十分な成果を上げることができた。							
備考								

4 取組実績等についての総括（法人）

○春から秋にかけて特別展2回、企画展2回の計4回の企画を行うことで動員増を図り、安定収入を継続して確保できるよう取り組んだ。また、特別展の開催日数を増やし、春の特別展を年度を跨いで開催することで、お花見客など近隣の公園への来園者が多くなる3月下旬、行楽客の増えるゴールデンウィークとともに会期に取り込み、動員を図るなど工夫を行っている。利用料金収入についてはある程度確保できたが、事業収入が目標値を下回るなど全てが順調とはいかなかった。全般的にはコミックスとのコラボレーションによる若年層の取り込みなどで動員力をアップできたこと、初めて海外の文学者を採り上げたことなど、多彩な成果のあった年度となった。今後もバランスのとれた事業を展開することで、これまでの利用者数や観覧料収入のレベルを維持できるよう心掛けたい。

○県内小・中・高等学校への巡回パネル文学展については、これまで文学館活用研修会などを継続して来た成果が実り、学校側の受け入れ体制も徐々に整備されたことで好成績を上げることができた。事業専門員を専従で配置し、高文連や小・中・高校との連携を図った成果が表れている。文字活字文化振興事業の行事の一環である高校生向けの文芸講演会については参加者数の安定を図るため、募集方法を改め、一般参加者枠を増やしたが、進行等を高校生が行うことで、世代を超え若手作家への共感を広げることができた。

○民間企業や学術団体等外部組織と提携した講演会や朗読会、シンポジウムなどを展覧会と連動させて共催し、展示動員を図りつつ生涯学習支援の活動にも力を注ぎたい。

5 取組実績等についての総括（所管課）

○平成30年度は、展示室・閲覧室・会議室の利用者数で、達成率106.7%と目標を大きく上回った。特別展・企画展の年間入場者数は42,334人にのぼり、5年連続で4万人台を記録し好調を維持した。秋に開催した「寺山修司展」では、新しい展示の手法を取り入れたり、横浜市の協力のもと文学館周辺の公園を使った展示を行うなど、展示方法を工夫したことにより、若年層から中高年まで幅広い年齢層の来館者を獲得することができ、総入場者数は12,358人に上った。

○年度を跨いで開催した「与謝野晶子展」では、コミック「文豪ストレイドッグス」とのコラボレーションにより、若年層の入館者数を伸ばすことができた。また、高等学校等に展示パネルの貸出を行う「パネル巡回文学展」の実施校数は、前年度の33校から39校へ伸び目標を大幅に達成した。このような取組は若年層が文学に親しむきっかけになるため、今後も継続していくことが期待される。

○利用料金収入は前年度よりは増額となり、目標を大幅に達成することが出来た。事業収入については目標を達成することができなかったが、図録等の売り上げに左右される部分ではあるので、引き続き販売率向上に努めてほしい。また、友の会会員は、前年度の実績を下回り、目標を達成することができなかった。友の会等の固定的な利用者を確保することは安定的な経営を続けるために重要であるため、今後は会員特典を見直すなど、新規開拓へ向けて積極的な取組を期待する。

○昨年度に引き続き照明のLED化を徐々に推進し、年間電力使用量及び年間電力電気料金はともに目標を達成することができた。今後も様々な側面で経費削減に向けた工夫を続けていくことが期待される。

6 第三セクター等改革推進部会の総合評価・今後の取組に向けた意見

評価結果	
A	概ね着実に取組が進められている。 神奈川近代文学館友の会の会員数の増加に努めていただきたい。